

あなたの健康、見逃していませんか？

健診・がん検診のススメ

健診って
何を調べるの？

がん検診って、
自分にはまだ早いかも…

そんな風に思っていないですか？

実は、健診やがん検診は、病気を早く見つけ、治療につなげるための大切なチャンスです。自覚症状がなくても、体の中では病気が進んでいることもあります。だからこそ、定期的な確認が重要です！

ところで「けんしん」には「健診」と「検診」がありますが、その違いをご存じですか。

「健診」は健康診断の略で、自分の体の健康状態を確認し、病気の予防や早期発見を目的としています。

一方、「検診」はある特定の病気を発見するために行います。例えば肺がん検診は肺がんを、婦人科検診は婦人科特有の病気を早期発見することを目的としています。

健診・がん検診のメリット

- ① 少ない負担額で健康チェックができる！
- ② 早期発見、早期治療ができ、治療の選択の幅が広がる！
- ③ 医療費、治療時間の節約につながる！

通院中の検査は、治療中の病気に関するものに限られます。治療中の病気以外の健康問題を発見し、総合的な健康評価を行うためにも健診・がん検診を受けることが重要です。

大切なことは、「病気になってから」ではなく、「元気な今こそ体を見つめなおすこと」です。

がん検診について

がん検診は、自覚症状がない早期のうちにがんを発見・治療することを目的としています。そのため、症状がない方が、がん検診の対象者になります。

がんは早期発見・早期治療をすることにより、約80%～90%が治るといわれています。早期のがんを発見するためには、定期的にがん検診を受診することが大切です。

町では、健康増進法に基づいて、以下のがん検診を実施しています。

また、お勤めの職場や加入する健康保健組合などでも、がん検診を実施している場合がありますので、ぜひ受診してください。

町が行っているがん検診

種 類	検査項目	対象年齢
胃がん	胃部X線検査	40歳以上
胃がんリスク検査	ABC検査(採血)	40歳以上 ※1回限り
肺がん	胸部X線検査、喀痰検査	40歳以上 ※喀痰検査は50歳以上のハイリスク者のみ
大腸がん	便潜血検査	40歳以上
前立腺がん	PSA検査(採血)	50歳以上の男性
子宮頸がん	細胞診	20歳以上の女性
	マンモグラフィ	40歳以上の女性
乳がん	乳腺エコー	20歳以上39歳以下の女性
	マンモグラフィ+乳腺エコー	40歳以上の女性

がん検診の結果が「要精密検査」の場合、できるだけ早く受診し、精密検査を受けてください！

「要精密検査」と判定された段階では、まだ、がんとは決まったわけではありません。

がんの疑いがあるという判定ですので、より詳しい検査が必要です。

健診について

健診の目的は、その人が健康かどうか、病気の因子があるかどうかなど、総合的な健康状態を調べることです。

生活習慣病は、自覚症状がなく、気付いたときには進行しているというケースが少なくありません。自分の健康状態を確認し、生活習慣の改善に向けて取り組みましょう。



町が行っている健診

種 類	対象者
上毛町国保特定健診・若年者健診	20～74歳の上毛町国民健康保険加入者
50歳節目健診	年度末年齢50歳の方
後期高齢者健診	後期高齢者医療保険加入者
生活保護健診	40～74歳の生活保護受給者

健診内容

	調べる項目		数値からわかること	健康との関係
	身体測定	身長・体重・BMI(肥満度) 腹囲(おへそ周り)	身体の大きさ 内臓脂肪の蓄積	急な体重減少は衰弱を招きます。肥満は足腰への負担となる他、高血圧・高血糖の危険因子になります。
基本項目	血圧測定	血圧	血管の傷み	
	血液検査	LDL(悪玉)・HDL(善玉)コレステロール、中性脂肪	内臓脂肪の蓄積 血管の傷み	LDLコレステロールの値が低い場合、エネルギー不足の状態です。高い場合、肥満や動脈硬化のリスクを高め、心臓病や脳卒中を引き起こす可能性があります。
		AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、アルブミン※1	肝機能、内臓脂肪の蓄積	アルコールや薬は肝臓で分解されます。値が高い場合、肝炎や脂肪肝などが考えられます。アルブミンは、栄養状態の指標になります。
		血糖、HbA1c	インスリンの働き 糖尿病、血管の傷み	糖尿病の指標になり、進行すると失明や腎不全による透析につながります。
		尿酸値	痛風、血管の傷み	痛風発作を起こし、心臓病、腎臓病を引き起こす可能性があります。
	尿検査	尿潜血、尿たんぱく	腎機能、血管の傷み	腎臓や、泌尿器系の病気の可能性があります。
		尿糖	インスリンの働き 糖尿病	糖尿病の指標になり、進行すると失明や腎不全による透析につながります。
詳細項目	血液検査	赤血球、ヘマトクリット、色素(ヘモグロビン)	貧血 血液の固まりやすさ(血栓)	値が低い場合、疲れやすくなり、心臓や脳に負担がかかります。高い場合、血液がドロドロになり、血栓ができやすくなります。
	心電図		心臓病 血管の傷み	不整脈や心臓病の指標になります。
	眼底検査 ※2		血管の傷み	高血圧や糖尿病、動脈硬化など、全身の血管に異常がある病気の早期発見に役立ちます。

※1 後期高齢者健診のみ ※2 医師が必要と認めた場合

問 子ども未来課 町民健康係 ☎ 72-3127(内線226)